

韓国農林畜産食品部プレスリリース（2018年12月6日 18:00）

## 野鳥糞便より H5 亜型及び H7 亜型鳥インフルエンザ（AI）抗原検出急増に伴い、AI 防疫措置を強化

出典 URL :

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGbWFmcmElMkY2OCUyRjMxODk1NSUyRmFydGNsVmllldy5kbyUzRg%3D%3D>

（機械翻訳に基づく仮訳）

◇ 渡り鳥の到来に伴い、野鳥糞便より H5 及び H7 亜型 AI 抗原検出が急増していることから、農林畜産食品部は防疫措置の強化を推進している。

※10月以降野鳥糞便より H5 及び H7 亜型 AI 抗原が計 27 件検出されており、このうち約 56%を占める 15 件が、11月20日以降に検出されている。

○ 野鳥糞便の精密検査の結果、高病原性 AI 抗原が検出された場合、以下の防疫対策を強化する予定である。

- ① 全国重点防疫管理区域における消毒施設設置を拡大
- ② 70 の市場において、家きんとカモ目（鴨、ガチョウ、雁など）の流通を禁止
- ③ AI 抗原検出地区における家きんの移動制限、搬出制限区域の設置、鶏卵回収や人工授精師、ワクチン接種チームの農家訪問を 1 日 1 回とするなど、人の移動を制限

また、H5 及び H7 亜型 AI 抗原が低病原性であった場合も、半径 10km 圏内は 7 日間の消毒・監視を実施

※家きん農場で H5 及び H7 亜型低病原性 AI 発生時には、発生農場と隣接農場は AI 緊急指針（SOP）により全羽を殺処分。（発生農場と垣根のない隣接農場に限る。）

○ 点検チームを編成し、野鳥飛来地の近隣農場、地方自治体の防疫推進状況や採卵鶏の養鶏場（11 か所）に関しても点検を実施中である。